

～いよいよ一般選抜合格に向けて、最終段階です～

唐突ですが、皆さんは誰のため、そして何のために学んでいるか、考えたことがありますか？もう10年以上も前の話になりますが、学校訪問で鹿児島県に行った時のことです。その時、九州新幹線の終着駅の鹿児島中央駅で出会った、学校帰りの高校生たちに私は大きな衝撃を受けました。女子生徒はみんな髪の毛をきつく結び、スカートも膝まできちんと伸ばしていました。男子生徒はボタンを上まで留め、ズボンのベルトもしっかり留めていました。とにかく、すれ違う生徒全員の清潔感のある身なりに驚愕しました。訪問した鹿児島県立鶴丸高校では、授業見学をさせていただきましたが、その時の生徒の立派な授業態度に圧倒されました。また、その後の校長先生からの「鶴丸では調和の取れた人間性の育成に努めています。それは、将来、日本のために役立つ人間になって欲しいからです。」というお話に目が点になりました。日本のため??私はその日まで、「個人」の進路希望が叶うようにとは思って生徒と接してきましたが、将来の「日本」のために貢献できる高校生を育てる進路指導というスケールの大きな発想は持っていませんでした。もう一つの訪問校、鹿児島県立甲南高校でも同じことを言われ、鹿児島県の教育は、生徒たちが将来「日本」のことを考えて行動できる人間になれるように日々教育されているということが実感できました。これは鹿児島県独特の教育風土によるものなのかもしれませんが、駅ビルで出会った高校生たちの独特な雰囲気は間違いなくここから来ているのだと確信しました。もちろん、西高の多くの生徒は礼儀正しく、勉強にも運動にも真面目に取り組む姿勢を十分に持ってはいませんが、日々学んでいることを、自分の将来はもちろんの事、是非とも地域を含めた、日本のためにも頑張ろうという姿勢や気概が持てれば、個人としての成果がさらに上昇するのではないかと思います。また、3年生は共通テストや一般選抜の本番まで残り少なくなってきましたが、まだまだできることは沢山ありますし、特にこの時期を通して「自分で自分を教育する力」、特に「**自学自習力**」を身につけて欲しいと思います。受験期に限ったことではないですが、「**自学自習力**」が高く、自分の頭で物事を考える癖が身についている生徒はより高い目標を達成し、人間的にも成長していきます。自分を信じて、最後まで頑張ってください。

ところで、この時期になると、今年度の受験環境と志望動向がある程度はつきりしてきます。そこで、各予備校、業者のデータを参考にしながら分析したものを報告したいと思います。ただし、この中には、共通テスト後に大きく変動する可能性がある内容も含まれていることを念頭に読んでください。

1 2024年度入試に関するピックアップ・変更点

- ・18歳人口の減少に伴い、2021年度入試から受験生は減少していますが、昨年度、2万人減少したのに引き続き、今年度はさらに3万4千人減少しています。その一方で健全な大学経営の維持に向けて、国公立大800名・私立大2400名規模で定員が増加するなどチャンスが広がってきています。
- ・私立大学入試は昨年度入試において、志願者数・合格者数・入学者数それぞれ減少しました。定員割れの大学の割合は53%と半数を超えただけでなく、より深刻な定員充足率80%未満の大学の割合が26%と全体の4分の1を占めるという深刻な状況となってきています。
- ・国公立大学では千葉大、熊本大、京都府立大などデータサイエンス系学部の新設が目立っています。ここは文系・理系いずれからも受験できる入試科目が設定されているのが特徴です。

2 大学入学共通テストについて

- ・今年度の大学入学共通テストの出願についてですが、大学入試センターから発表された出願締切最終日の出願総数は465,489人で、昨年と同じ日と比較すると13,879人の減少となっています。そのうち、高等学校等卒業見込者(現役生)が403,718人と11,995人の減少となっています。高等学校等卒業生等(既卒生等)は1,884人減少して61,751人となり、全体で3%の出願者数の減少となっています。

(裏面につづく)

3 模試における志望概況

① 国公立大学

- ・第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試の志望動向をみると、国公立大では全体の志望者数の対前年指数98に対して、経済・経営・商学、医学、歯学、理学、農・水産系統などの指数が98を上回り人気の系統となっています。一方で、人文科学、語学、生活科学、薬学系統などでは志望者数の減少が目立ちました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療系の学部系統で志望者数の増加が続いていましたが、医学系統の人気は継続しているものの、薬学系統の人気はやや低下してきています。
- ・文系では人文科学系統が長期的に不人気の傾向が続いており、このままの動向が続けば2024年度入試でも志願者数の減少が続くと予想されています。法学系統も人文科学系統ほどではありませんが、志願者数の減少が続いています。一方で、経済・経営・商学系統と教育学部は2023年度入試で志願者数が増加に転じましたが、今年度は前年指数がそれぞれ99・98となっており、このままの動向が続けば安定した志願者数が集まりそうです。国際関係学系統は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受け、2021年度入試で大きく志願者数が減少しましたが、留学を再開する大学が増加してきているなどの環境変化を受けて、減少傾向が緩やかになってきています。
- ・理系では理学部はほぼ昨年度並ですが、工学部はやや減少傾向となっています。工学部では学科による志望動向の格差が激しく、情報系の学科の人気が他の学科を圧倒しています。次いで建築系が人気ですが、逆に電気、機械系の不人気は長期化しています。農学部は前年指数99と人気に戻ってきています。
- ・メディカル系では薬学部が92と減少傾向となっています。近年、新型コロナウイルスワクチン接種で注目が集まったことで、特に国公立大の志願者数の増加傾向が続いてきましたが、今年度は一気に志願者が減少に転じました。一方、医学部医学科は前年指数が102と人気は堅調に推移しています。薬学部や医学部では面接や志望理由書を入試で課す募集単位が年々、増えてきていますが、これらは、入学してどんな薬学や医療がしたいのかを受験生に厳しく問いかけているのだと受け止めてください。例えば、旭川医科大学では一般選抜において出願時に志望理由書をA4版で2ページ分、書いて提出しなければいけません。周囲に進められたからという理由で薬学部や医学部を志望すると教科の受験学力が高くても面接などで不合格になるので注意してください。また、医学部医学科の入学定員は2024年度入試においても「令和元年度の医学部定員総数の9420人を超えない範囲で、その必要性を慎重に精査しつつ、暫定的に現状の医学部定員を概ね維持」する方針となっています。各大学が前年と概ね変わらない入学定員となるような増員申請を行っています。まだ認可が出ていない大学もありますが、2024年度入試も全体としてほぼ前年と同じ程度の入学定員となるとみられます。

② 私立大学

- ・文系の人文科学系統、法学系統は国公立大学と同様に不人気系統となっていますが経済・経営・商学系統は国立大学では人気は上昇していましたが、こちらでは前年指数96と今のところ、減少傾向を示しています。外国語大学は相変わらず厳しい募集となっていますが、近い系統の国際関係はゆるやかな減少傾向となっています。私立大学でも留学はほぼコロナ禍前に戻ってきているので志望や将来の留学を考えている生徒は前向きに志望を貫いてください。
- ・理系の理学部と工学部は国立大学とほぼ同じ志望動向となっており、理学部は前年並みで工学部はやや減少傾向を示しています。農学部では国立大学は前年並みの前年指数99でしたが、私立大学は前年指数96とやや減少となっています。なお、農学部を設置している私立大学は少ないので志望者は注意してください。
- ・メディカル系も国立大学と同様に、薬学部は減少、医学部医学科は前年並みとなっています。医学部を受験する場合は学費や奨学金制度を十分に理解して出願するようにしてください。

以上、今回は全体の状況までを報告します。各大学の個別状況については、難関大学と近隣の大学を中心に次号で報告したいと思います。

(文責・松村)